

誰かのために、私のために

宮城県仙台二華中学校

三年 田中朝望

「先生、あの、指揮を、やりたいなって。」震えながらに話した日の前日、指揮者はほぼ決まっていた。普段の私なら、一度決まったものに意見するような、誰かに迷惑をかけるようなことはしない。しかし、その時の私は、周りのことなど一切頭になく、「やりたい」、ただそれだけが、ずっとぐるぐる回っていた。

中学一年生の夏休み明けからほとんど学校を休んでいた私は、冬頃にたまに登校しても、できるだけ目立たないように席にいた。様々なことに自ら立候補していた小学生の頃の私は、手の届かないどこか遠くへ消えてしまっていた。

毎日学校に行くようになったのは、中学二年生に進級したのがきっかけだった。積極的に素の自分を出したおかげで、学校で友達と過ごすのが楽しいと感じることができた。しかし、しばらく学校と距離を置いていた人はみんなの前に立つてはいけないと自分に言い聞かせ、心はまだひっそりと息を潜めていた。

また一つ学年が上がった。人は案外、きっかけがあれば簡単に変われるのかもしれない。「やりたい」という気持ちは虹のように突然現れ、積乱雲のよう

に瞬く間に膨らみ、夕立のように爆発した。このクラスなら絶対にできる、中学最後の年くらいはみんなの歌を聴きたい……。とめどなく溢れる気持ちの行きつく先は、「指揮、やりたい」だった。

「やりたい」と自分から口にした。伴奏者の友達、担任の先生、不登校だった頃もずっと見守ってくれていた母親。彼らに話した言葉は、私の決意をよりに、私の「やりたい」思いは実った。手が届かないほど遠くへ消えたはずの昔の私は、多くの人のおかげでた勇氣や笑顔のおかげで、三年の時を経てパワーアップして帰ってきた。やりたいという人がほかにいたらすすんで譲っていた私が、アンケートでも「どうしてもやりたいので自分でお願います。」と自己推薦したのだから。

合唱コンクールまでの約一カ月間は、長いようで短かった。初めて男声パートの練習にいた時、私は、どうしてよいか分からずイライラしていた。思わず大声で「聞こえますか！」と叫んでしまい、冷や汗が流れた。しかし、一人の男子がすかさず、「ブラジルの人！」と冗談を言ってくれたおかげで笑いが起き、心に少しだけゆとりができた。場の雰囲気

を良くする人、練習したい部分を積極的に言う人の確かなアドバイスをする人……。楽しそうに歌う人もいた。

本番の約一週間前からだった、朝起きると体調が悪かったのは。きっと、「みんなの理想の指揮者をやれているのか」という大きな不安が原因だと思ふ。クラスメイトには何となく相談しづらく、中学一年生の時から仲の良い、別のクラスの友達に打ち明けた。「思い描く指揮者は人それぞれなんだから、自分なりに頑張ればいいよ。」と言われ、気づいた。

それは私も、頭の中では分かっていた。誰かに言葉にしてほしかっただけなのかもしれない。そして昼休み、大声で叫んだ。「窓全開にして思いっきり歌おうか！」こぼれそうなくらいの温かな涙がにじんで、窓をうまく開けられなかった。

三十五人で歌った一度きりのあのステージは、ただただ楽しかった。一人一人と会話しているような、歌声の中を全速力で駆け抜けているような、どこか懐かしい不思議な気持ちに包まれた。「伴奏間違えてごめんね、ごめんね。」と泣く友達を見て、それくらい悔しいと思える合唱が、指揮が、できたのかなと感じた。結果発表後、顔をぐしゃぐしゃにしながら伝えた。「指揮をやってよかった、このクラスでよかった。」という感謝の気持ちを。

めまぐるしく回った一カ月、多くの言葉をかけ合い、泣いて、笑って、頑張った。積極的に発言し、楽しそうに歌い、ずっと指揮を見ていたのも、指揮者である私のためではないだろう。優勝したいだとか、歌うのが好きだとか、きつとみんな、自分の意志で頑張っていたと思う。しかし、その一つ一つの行動が私を突き動かす原動力になっていた。自分の「やりたい」気持ち、ただそれだけで指揮者になった私も同じだ。誰かのために思ってたことはもちろん、何気なくいつも通りやっていることや、自分の意志でやったことこそ、誰かの力になるのではないだろうか。

これから先、自分の思い通りにならなかったり、不満が募ったりすることもあろう。そんな時、たくさん力をくれたみんながぎゅっと詰まった、中学最後の合唱コンクールを思い出し、誰かのためになっているのかもしれない、そう前向きに考えたい。そして、自分の気持ちを無視せず、まず素直に受け止めることを忘れないようにしていきたい。

作文を書くに当たって

自ら指揮者に立候補し、やり遂げたことは、中学校に入ってからずっと息を潜めていた私にとっては本当に大きな一歩でした。その一歩を踏み出す勇氣をくれた両親や先生。そして、たくさん大切なことに気づかせてくれ、また、とても楽しい思い出と一緒にしてくれたクラスメイト全員には、感謝の気持ちでいっぱいです。